

令和6年度 第3回 甲賀市総合計画審議会 会議録

開催日時 令和6年10月7日（月曜日）18：00から19：30まで
開催場所 会議室301
出席委員 池田委員、石野委員、大北委員、大隅委員、金林委員、菊池委員、木村委員、佐治副会長、高木委員、西田委員、服部会長、原田委員、松村委員
事務局 吉川総合政策部長、藤橋総合政策部次長、橘政策推進課長、近藤室長、熊野課長補佐、植西主査、山本主査、中井主事

- 会議次第**
- 1 開会
 - (1) あいさつ
 - (2) 新委員委嘱
 - 2 協議事項等
 - (1) 副会長の選任について
 - (2) 第2次甲賀市総合計画(第3期基本計画)（素案） について【資料1】

関連資料

- ① 【資料2】 第2次甲賀市総合計画（第3期実施計画）について
- ② 【資料3】 甲賀市議会における意見のまとめ
- ③ 【資料4】 タウンミーティングにおける意見のまとめ
- ④ 【資料5】 オンラインプラットフォームにおける意見のまとめ

(3) 全体を通しての意見交換

(4) スケジュール説明

3 その他

1. 開会

2. 協議事項等

(1) 副会長の選任について

会 長：事務局案があれば、提示いただきたい。

事 務 局：【佐治委員に副会長になっていただくことを提案】

委員一同：【異議なし】

会 長：異議がないようなので、賛同いただける方は拍手をお願いしたい。

委員一同：【出席者全員拍手】

C 委 員：このタイミングでの選出される副会長の役割とは何だろうかと考えていた。これまでの審議会における“生の声”を市長に届ける役目として、尽力したい。

(2) 第2次甲賀市総合計画(第3期基本計画)(素案) について【資料1】

事 務 局：【資料1に基づき説明】

会 長：素案について、審議会の意見を取りまとめる必要がある。素案に対して、異議なく認めることでよいか。

B 委 員：資料3、4を見ていると、課題感が人口減少に集約されており、素案の方向性と一致しているので、おおむねよい。ただ、検討をお願いしたい部分もある。15ページに「アンコンシヤスバイアス」と書いてあるが、「ジェンダーバイアス」に変更できないか。地域の中では役員等が30%にまだまだ満たない。26ページ「農林畜水産」に関して、高齢化に伴って遊休農地が増えていっているので、農業振興課が本腰を入れて取り組むべきであるが、地域計画については従来のものをそのまま書き換えているような状況。誰がどこの田畑を管理していくかという具体的なことも触れていただきたかった。28ページ「道路交通」に関しても、もう少し具体的なことが書かれていると見やすい。

事 務 局：審議会においても、地域の意見交換会においても、地域の困りごとも含めご意見をいただいている。総じて、人口が減ってきていることにより表出した課題についての発言が多かった。移動に関する課題、農地の担い手に対する課題、草刈、獣害対策など多くの意見をいただいている。それらの課題を限られたスペースの中で、表現するには限度もあるので、表記等の詳細については分野別計画で対応していきたい。各課にもそのように周知している。

B 委 員：小学校の統廃合について、公教育の質を担保するためにも、土山、甲賀、信楽については、いち早く、町に1つの小学校にさせていただきたい。市内の中学生の学力が低下していることもあるので、学科を専門の先生に教えてもらえるようにして、中学進学タイミングで他市町の学校に通う必要がないように、公教育を充実させるべき。

事 務 局：学校再編については、現在教育委員会にて計画の見直しを進めており、次年度以降はその計画に則り、再編を進めることになる。教育委員会とも課題を共有しつつ、協力していく。

A 委員：2点ある。1つは人口減少対策について、もう1つは「甲賀スタイル」について。全国的に人口が減少する中、外国人人口は増加傾向にある。甲賀市においても、約4,500人おり、特に20～40代が多い。今後、外国人労働者がいないと日本は人手不足に陥るということが想定され、政府が受け入れ対策を打ち出している中、ドイツの移民政策のように、定住していただくためにはどうすればよいか漠然と悩んでいる。もう一つ、「甲賀スタイル」がしっかりこないで、具体例を入れてとよいと思う。特に、「アイデンティティ」という言葉について、外国人のこどもは、日本で生まれた方もおり、多様な文化の共存する地域をつくっていく中で、どのようにこの言葉表現すればよいか気になった。

事務局：近年、転入超過に転じている大きな要因の1つが、外国人の転入増加である。いまや総人口の5%が外国人であり、企業における人材確保という側面も含めて、外国人に対する支援は重点課題ととらえている。素案の中でも、重点プロジェクトの一部として、外国人の就労を進めることを謳っている。今後においても、多文化共生については、担当部局と進めてきたいと考えている。「甲賀スタイル」について、「新しい豊かさ」というフレーズは、庁内においては、ある程度浸透していたが、その意味については浸透していなかった。業務の目標を共有するという目的もあり、市民の暮らしの余白（経済的・時間的な余裕など）をつくることをイメージしながら業務を遂行できるように、具体例を列挙するような表現ではなく、あえて理念的な表現にしている。

会長：いただいた意見を、素案にどのように反映させるかは、事務局で検討していただきたい。そのほか、この素案をもって答申することについてはいかがか。賛成いただける方は、挙手を願いたい。

委員一同：【出席者全員挙手】

会長：賛成多数の確認ができたので、本審議会としては、事務局の素案をもって答申することとする。

（3）全体を通しての意見交換

C 委員：いろんな知見を持っている方々とお話できたことが貴重な経験だった。参加できたことに感謝するが、基本計画なので具体的な内容に落とし込めていないと感じた。普段感じている課題を実施までもっていきたいと考えていた方が多かったのではないかと思いますので、実施計画に反映してほしい。計画を立てながら予算をとるのも大事だが、行政は時間がかかると思うので、民間と連携をとるなどして、素早いアクションをとってほしい。すぐできることもあるはずなので、世の中に取り残されないように検討していただきたい。

D 委員：20分野64施策ということで、大枠はここで決まったと思うが、実施する担当課、現場の意見を集約して、実施していく形になればよいと思う。

E 委員：自分の意見を届けられたかの手ごたえがないことが自身の反省。審議会においては、勉強させていただいた場面も多くあったので、引き続きみなさんのためになるようなことができ

ばよいと思う。

- F 委員：私は、自身も4児の母であるが、子育て支援をボランティアでしており、子育て枠での参加であった。20年の間に子育て支援に力を入れてくださっているが、母は働かないといけないという流れになっている気がする。保育料の無料化、病児保育とあるが、子を産んでから1年経てば、働かなければならない。甲賀市が2年～3年くらい仕事をしなくても子育てが成り立つような支援を考えてもらえないかと感じた。他と異なる子育て支援を検討いただきたい。
- G 委員：みなさんの意見で勉強させていただいた。意見を出せなかったのが反省点。さまざまな施策があり、それに基づいて事業がなされていることが知れた。市民の生活が豊かになるように考えていただけていることの支援ができるのが審議会だと感じた。
- H 委員：学生である自身の経験が言えなかった反省もあるが、ディスカッションのときには意見を言え、若者からの視点が伝えられたと感じている。他の自治体に入ることもあるが、学生を迎え入れる余裕のある自治体は力強さやコミュニティとしての持続性を感じる。PBL（プロブレムベースドラーニング）を取り入れてみると、若者の意見が取り入れることができるのではないかと感じた。
- I 委員：ほかの委員さんの意見を聞いて感謝している。男女共同参画の委員もしているが、母の介護保険の区分が上がったが、在宅での介護は離れる機会を作らないと優しくできない。こういった機会を与えてくださってよかった。総合計画はこれでよいが、へき地に住んでいる方からの要望については、行政が受け入れてくれないと生活が成り立たなくなってしまうので、課題の1つと感じた。
- J 委員：議論を聞いていると、立場は違えど甲賀市をよくしていきたいという強い思いが見えた。自身の仕事でも、地域に関わりながら協力していきたい。
- B 委員：委員会や会合を持つときに公募されるが公平なようで偏っているように思う。公募することで、本来役が当たっていた人が活動する余地がなくなるので、活動する人が減ってくると懸念している。審議会の感想としては、グループディスカッションという性質上、直接お話ししていない委員さんもいる。直接意見を聞きたかったなと思う方も多くいらったことが残念だった。
- A 委員：国際交流という分野で参加した。海外で開発計画に携わっていた際に、地域のリーダー格に限らず、いろんな分野の方が参加するワークショップを行って、生の声を聞く活動をしていた。それには、時間とお金がかかって難しいと思うが、我々が審議会において話していることはわずかなことなので、より地域住民の意見を反映させられる取り組みがあればよいのではないかと感じた。自身の立場から、外国人市民の声を届けられたかどうか疑念が残る部分があるので、今後このような会議で発言する機会があれば、課題に感じていることをまとめておくなどの対策をするなど、自身も変わっていけるとよいと思った。
- K 委員：福祉分野で参加した。障がい者に優しいまちづくりは、高齢者にやさしいまちづくりと同じ

値打ちがあると感じる。人間ができないことはロボットがするなど開発が進んでいる。例えば、盲導犬ロボットや介助犬ロボット、スマホアプリ等が発達していったら、目が見えなくても1人で歩けるという時代が来ると思う。民間に対する投資も含めて開発に携わるような取り組みもあったらよいと感じる。また、いかにすべての施策をスピードアップするかが大事。つくったはいいが、実行できなければ、絵に描いた餅に終わる。1つでもいいのでスピード感をもって実行してほしい。

L 委員：施策の概要や方針が決まった段階なので、推進していただくことに期待している。

会 長：社会やまちに根差した仕事ができるといいなと思っていたところに、委員の話が来たので引き受けた。総じて、行政の仕事は難しいと感じた。しかし、いろんな技術が導入され、不可能が可能になったり、スピードアップが実現したりするということに賛成するとともに、行政に対して苛立ちを感じる。例えば、自動運転については、10年前に実現してもおかしくないのに、早く導入してしまえばよいと思っているが、実際には導入されない。導入時の課題が想定されたり、一部の人が困るといった意見が出て、一向に進まないうちに、自動車運転の市場が出来上がり、後追いになっている。一部の意見を重んじることで決断できないという場面が多々あると思うが、「何を変えて」「何をしないか」という意思決定をどこかのタイミングでしなければならない。そういった意思決定には“痛み”が伴うが、それを市民と共有しつつ、最終的に意思決定できる仕組みや体制を作らなくてはならない。意見を吸い上げつつ、厳しいところを乗り越えられる形をつくっていただきたい。

(4) スケジュール説明(予定)

事務局：【次第】に基づき、今後のスケジュールを説明。

C 委員：実施計画は、委員に共有されるのか。

事務局：実施計画については、案を議会に提出する段階でお示しできるかと思う。

C 委員：任期はまだ続くが、今後の予定はいかがか。

事務局：審議会は、役所の提案に意見をいただく場。今後の参集は予定していないが、参集いただく場合は早めにご連絡差し上げる。

3. 閉会